

福祉生活病院常任委員会資料

(令和4年7月21日)

[件 名]

- とっとりエコライフ構想に係る取組について
(脱炭素社会推進課)・・・2
- 食品ロスの削減及びプラスチックごみゼロの取組について
(循環型社会推進課)・・・4
- 一定額以上の工事又は製造の請負契約の報告について
(緑豊かな自然課)・・・5

生活環境部

とっとりエコライフ構想に係る取組について

令和4年7月21日
脱炭素社会推進課

脱炭素社会実現のため県が推進する「とっとりエコライフ構想」に係る取組について、概要を報告する。

※とっとりエコライフ構想とは、「令和新時代とっとり環境イニシアティブプラン」の中で、脱炭素社会の達成に向けて提唱する、環境と健康を守りながら、快適に賢く住まうライフスタイルへ転換するとともに、「再生可能エネルギーの地産地消」と「新技術開発等」による地域経済の活性化を目的とした構想。

1 愛称及びロゴマークの設定

取組を推進する上でより県民に分かりやすく、なじみやすい取組となるよう、愛称及びロゴマークを制作し、普及啓発を実施する。



とっとりエコライフ構想の愛称「とっとりリボーン！」

- 鳥取県でCO2削減が進み、環境先進地としてREBORN(レベルアップ)へ。その輪がリボンの様に繋がる。
- ロゴマーク:CO2の文字をリボン化し、青丸でゼロ化を表現。

2 とっとりエコライフパートナー制度の創設及び登録証交付式の実施

「とっとりエコライフ構想」の取組を、自ら実践するとともに、関係者や顧客に広める取組を行う企業・団体等を登録する「とっとりエコライフパートナー」制度を創設し、登録第1号となる(株)山陰合同銀行への登録証を交付した。

(1) 制度の概要(6月28日創設)

パートナーとプラチナパートナーの2段階

＜パートナーの要件＞

- ・「とっとりエコライフ構想」の4本柱のいずれかを自ら実践し、また関係者や顧客に広める取組を行う企業・団体等

＜プラチナパートナーの要件＞

- ・「とっとりエコライフ構想」の4本柱の全てを自ら実践し、また関係者や顧客に広める取組を行う企業・団体等

＜「とっとりエコライフ構想」の4本柱と取組事例＞

とっとりエコライフ構想の柱	自らの取組	関係者・顧客へ広める取組
環境と健康にやさしく暮らしはたらく	・従業員の節電、省エネの取組 ・LED、省エネ空調の導入 ・社屋の断熱回収・テレワーク導入	・顧客へのNE-ST(とっとり健康省エネ住宅)の勧奨 ・省エネ家電の勧奨 ・マイボトル・ノーレジ袋の勧奨 ・フードロス減に資する商品開発
再生可能エネルギーを地産地消	・太陽光発電設備を導入し自家消費 ・省エネ電力を購入	・再生可能エネルギー販売 ・自家発電量の可視化
スマートムーブで暮らす	・電気自動車を導入 ・カーシェアリングの導入 ・公共交通機関・自転車通勤の勧奨	・顧客への電気自動車紹介 ・電気自動車のリース販売 ・充電器の整備
森林整備や森林資源の活用	・とっとり共生の森に参画 ・J-クレジットの購入 ・社屋への県産材活用	・J-クレジットの販売仲介 ・県産材の利用促進

(2) とっとりエコライフパートナー登録証交付式

○日 時 7月19日(火) 午前11時～11時30分

○場 所 (株)山陰合同銀行鳥取営業部

○出席者 (株)山陰合同銀行山崎取締役頭取、ごうぎんエナジー(株)安喰代表取締役社長、平井知事 ほか

○山崎取締役頭取のコメント

グループとして、自ら再エネの地産地消や省エネを実践するとともに、引き続き地域の取引先やお客様に環境保全の重要性を広める活動を通し、脱炭素社会の実現とそれに伴う地域経済の活性化並びに真に持続可能な地域社会の形成に力を尽くしていくことを誓う。

○平井知事のコメント

鳥取県の特徴としては、家計部門でのCO2排出の割合が大きい。(株)山陰合同銀行を通じてNE-ST、太陽光発電等の民間の取組を応援していただきたい。



3 とっとりエコライフキャンペーンの実施

「とっとりエコライフ構想」の実現に向けて、県民一人ひとりが家庭での取組を進めるため「とっとりエコライフキャンペーン」を実施する。また、開始日に合わせて、キャンペーンを盛り上げるための環境関連イベントを開催した。

(1) とっとりエコライフキャンペーンの概要

○実施期間 7月7日(木)～令和5年1月31日(火)

○実施内容

環境実践行動に取り組んだ県民が、WEB、SNS等で応募し、抽選で景品が当たるプレゼントキャンペーンを多くの企業の協賛を得て実施する。

- ・省エネ実践チャレンジ：WEB版の環境家計簿を活用した省エネ実践
- ・省エネ家電買替えチャレンジ：省エネ家電（冷蔵庫、エアコン、テレビ）への買替え
- ・こどもゼロカーボンチャレンジ：親子で取り組むゼロカーボン実践や自然エネルギーツアー
- ・クールシェアSNSフォトチャレンジ：SNSを活用した“涼”を感じる写真等の投稿

(2) セタ県庁ライトダウン

○実施日 7月7日(木)

○実施内容

本庁舎の執務室の照明を利用して「ZERO」を点灯後、午後8時に一斉消灯することで節電の呼びかけを実施した。

あわせて水素燃料電池車から給電したイルミネーションメッセージを点灯することで、電気自動車の蓄電・給電機能などを活用する新たなライフスタイルをPRした。



食品ロスの削減及びプラスチックごみゼロの取組について

令和4年7月21日
循環型社会推進課

市町村等と連携したフードドライブ活動の取組及びとっとりごみゼロプロギングの実施結果等について、報告する。

1 「第1回県下一斉フードドライブ事業」の実施

本県では、平成30年度から鳥取県生活協同組合に委託し、年1回フードドライブ活動を実施しており、令和4年度は、従来の取組に加え、市町村等と連携した「県下一斉フードドライブ事業」を実施し、取組の拡大を図る。

- (1) 実施期間 令和4年7月25日(月)～29日(金)
- (2) 食品等受入窓口 25か所(県、市町村、市町村社会福祉協議会)
- (3) 食品等提供先 各市町村内で生活困窮者等へ提供するほか、支援団体等を通じて子ども食堂等へ提供する。
- (4) これまでの活動実績
平成30年度1,235点(610kg)、令和元年度467点(552kg)、令和2年度2,433点(1,069kg)、令和3年度2,271点(2,118kg)
- (5) 今後の取組予定
9～10月 鳥取県生活協同組合委託事業(生協まつり等に合わせてフードドライブを実施し、取組の認知度向上を図る。)
1月 第2回県下一斉フードドライブ事業

2 「とっとりごみゼロプロギング」の実施結果

一般社団法人プロギングジャパンと共催で、ジョギングをしながらごみ拾いをするプロギングを開催し、プラスチックごみ等の適正処理及び街なかの環境問題について意識啓発を図った。

<プロギングとは>

ごみ拾い(Plockalupp)とジョギング(Jogging)を合わせたスウェーデン発の新フィットネス。走りながらごみを拾う、しゃがんだり立ったりを繰り返すため、通常のランニングよりも消費カロリーが上がると言われている。あくまでもポジティブな動機でごみ拾いを行うという点が特徴。

<一般社団法人プロギングジャパン>

2019年6月 団体設立、代表者 会長 常田 英一郎(所在地 東京都千代田区九段南)

設立目的: プロギングの普及、プロギングを通じたSDGsの浸透

- (1) 開催日 令和4年6月25日(土) 午前9時～11時
- (2) 場 所 夢みなと公園広場～弓ヶ浜サイクリングコース(往復約3km)
- (3) 回収したごみの重量 約5.5kg
- (4) 参加者アンケート結果

【ごみ問題への関心】

- ・関心が高まった 12人
- ・ある程度関心が高まった 8人

【行いたいごみ削減の取組(複数回答)】

- ・ごみ拾いなどのクリーン活動に参加する 16人
- ・マイバック・マイボトルを持参する 14人
- ・ごみ分別の徹底 12人
- ・コンビニ等でプラ製スプーン等の利用を辞退 9人



3 今後の取組予定

- (1) とっとりエコフォーラム(仮称)の開催(11月頃)
- (2) 河川におけるプラごみ調査(11月頃)
- (3) マイボトル運動キャンペーン(12月頃)
- (4) 持ち帰りバッグ普及啓発キャンペーン(12月頃)

一定額以上の工事又は製造の請負契約の報告について

令和4年7月21日

生活環境部

【新規分】

主務課	工事名	工事場所	契約の相手方	契約金額	工期	契約年月日	入札方式
緑豊かな自然課	ヤマタスポーツパーク陸上競技場 改修工事	鳥取市 布勢	長谷川体育施設株式会社 岡山営業所 所長 村田 宏也	361,240,000円 (予定価格) 393,544,800円	令和4年7月20日 ～令和5年3月17日	令和4年7月20日	制限付 一般競争入札 (2社)